

科 目 名	認知行動療法					開 講 キャンパス	神 埼
担 当 者	古 賀 靖 之						
開 講 年 次	3	開講期	前期	単位数	2	必修・選択	選 択
授業の概要 及びねらい	本講義では、まず最初に行動療法・認知行動療法の基本理論である行動理論について学習する。次に、教育臨床、病院臨床、福祉臨床領域において実践される治療技法について学習を深める。さらに事例研究を提示して、認知行動療法の臨床実践への手続きや展開の仕方についても説明する。						
授 業 の 到 達 目 標	(1) 行動療法・認知行動療法に関する基本的理論を理解する。 (2) Overt behavior と Covert behavior の関連性を理解する。 (3) 認知行動療法のための行動分析の方法について習得する。 (4) 認知行動療法の治療技法について習得する。 (5) 認知行動療法の臨床実践のための手続きや展開の仕方について理解を深める。						
学 習 方 法	講義とビデオ学習						
テキスト及び 参考書等	小林重雄監修 小林重雄・古賀靖之編著：医療臨床心理学 コレール社 ￥2500（税別）						
評 価 基 準 ・ 方 法	到 達 目 標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等							
宿題・授業外レポート	◎	◎			○		50
授業態度				○			10
受講者の発表				○			5
授業への参加度				◎			20
その他	認知行動療法に関する演習として、SST やロールプレイングを行う。					○	15
合 計							100
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
第 1 週	行動理論からみた人間理解の方法						
第 2 週	ビデオ視聴学習によって臨床事例を知る						
第 3 週	Overt behavior と Covert behavior との関連性						
第 4 週	レスポナント条件づけについて						
第 5 週	オペラント条件づけについて						
第 6 週	社会的学習理論について						
第 7 週	行動療法から認知行動療法への展開						
第 8 週	認知行動療法のための行動分析の方法						
第 9 週	認知行動療法の治療手続き						
第 10 週	認知行動療法における治療技法①						
第 11 週	認知行動療法における治療技法②						
第 12 週	認知治療技法における治療技法③						
第 13 週	認知行動療法の実際①						
第 14 週	認知行動療法の実際②						
第 15 週	全授業の総括とディスカッション						
第 16 週							
備 考	授業への出席、自分の意見の確立など、主体的行動を期待する。 事前事後学習については授業ごとに指示を行う。						